

第3回高知県における特別支援学校の再編振興に関する検討委員会

1 日 時 平成27年6月22日(月) 18:30~20:30

2 場 所 高知県教育センター分館

3 出席者 委員12名中9名出席、事務局9名

4 議 題

(1) 事務局からの説明

① 第2回高知県における特別支援学校の再編振興に関する検討委員会において出された質問等について

② 県外の先進事例を学ぶ

(2) 今後の高知県の病弱教育に必要な教育内容について

6 協議の要旨

(1) 事務局からの説明に対する質疑・応答・意見

① 第2回高知県における特別支援学校の再編振興に関する検討委員会において出された質問等について

○ 他県の養護学校では、看護師がやめられ医療的ケアができなくなった事例がありますが、高知県の状況についてはどうなっていますか、また、看護師が対応できない場合、先生方が子どもの病気について把握しておかないと判断に困ると思いますが、どのように対応していますか。

A: 看護師については、医療的ケアを必要としているお子さんや健康安全面に配慮が必要なお子さんが在籍している学校に配置しており、本校分校あわせて現在7校に配置しており、県外のような事例は発生しておりません。個々のお子さんの病気の状態の把握については、養護教諭と担任が医師に聞き取りを行って現状把握を行っており、他の教員とも情報共有を行うようにしています。また、多様な病気についての研修会・勉強会を行い、教員の専門性の向上にも努めています。

② 県外の先進事例(徳島県立みなと高等学園)について

○ みなと高等学園には、発達障害と精神疾患の商業・情報部には、商業ビジネス科と情報デザイン科がありますが、どこかの学校を参考にされたのでしょうか。

A: 基本的には一般就労を目指した学校ですので、県内の商業高校や他県の情報学科を参考にして検討いたしました。

○ 生徒のカウンセリングや社会性を育てる授業について教えてください。

A: カウンセリングについては、臨床心理士の方にもお願いすることも検討いたしました。生徒の状態を一番理解している教員が話を聞くことが一番良いだろうという結論に至りました。また、社会性を育てる授業に関しては、自立活動の中で、進路指導とからめながらソーシャルスキルトレーニングを行っています。

○ 発達障害者の支援をセンター的に担うための担当者数と担当者の養成について教えてください。

A：センター的機能の地域支援については、3名を巡回相談員として小・中・高等学校を支援しています。相談員の養成についてですが、もともと発達障害に対して専門性が高い教員を配置していますが、教育センター等の研修会に参加し、スキルアップを図っています。

○ 同じ建物内にある「発達障害者総合支援センター」との連携はどのようになっていますか。

A：発達障害者総合支援センターとは、同じ建物内ですので、すぐにケース会等を行うことができます。臨床心理士の専門家もいるので、生徒の状況によって連携を取っています。また、支援センターが成人の就労支援や作業実習を行う際に、本校の施設を活用し、教員が指導するケースもあります。そういった経験が専門性の向上にもつながります。

○ 退学や不登校の生徒はいますか。

A：高等学校の卒業資格がほしいということで、高等学校を受け直したり、通信制へ編入したりする生徒もいます。また、中学時代に不登校であった生徒も本校では、ほとんどが通学できていますが、少ないですが登校できない生徒もいます。

○ 発達障害と精神疾患の生徒の精神疾患の状況について教えてください。

A：不安障害や適応障害が多いです。通常は、障害があるかどうか分かりにくいですが、少しストレスを抱えたりすると症状が出たりします。

○ 「自尊感情が低く注意されたり、失敗したりすると激しく落ち込む。パニックになる。欠勤する。」「働くことの意味が理解できていない。」ことへの対応について、スクールカウンセラーは配置していないようですがどのような状況か教えてください。

A：本校の教員は、発達障害に関して長く勉強している教員が多いので、そういった面では専門性があります。また、教科の専門性の担保から、4割は高等学校からの教員となっているので、研修会等で専門性の向上に努めています。しかし、高等学校にも発達障害の生徒もいますので、そういった経験は特別支援学校の教員にも参考になっています。「発達障害の青年の就労上の問題」で指摘されたことに関してはなかなか難しい状況にあります。

(2) 今後の高知県の病弱教育に必要な教育内容についての質疑・応答・意見

多様な障害の状況に対しての教育内容・教育課程について

○ 中学部の生徒で、大学等への進学を希望しているものの、病状により高知江の口養護学校の高等部へ進学する現状があります。また、アンケート調査結果等の中では、就労希望もあるということを考えると、進学・就労の両方のカリキュラムが必要ではないかと思えます。

○ 就労に向けた学科はどのようなものが高知県には必要なのか考える必要が出てきますが、みなと高等学園において、2つの学科を設置した理由について教えてください。

A：学科については保護者にアンケート調査を行い、パソコンを使用する学科に関する要望が多くあり、参考にしました。しかし、今後は学科について再検討する必要があると思っています。たとえば、福祉関係に関する就労希望もあるため、介護福祉の補助的な仕事ができるような福祉系の学科があってもよいのではと思います。

○ 自尊感情を育てることについての話がありました。学校教育全般を通して行われるべきですが、その中でも総合的な学習や自立活動の強化が必要と思います。